

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590200303		
法人名	医療生活協同組合健文会		
事業所名	協立グループホームかいなん		
所在地	山口県宇部市海南町5-14		
自己評価作成日	平成28年3月29日	評価結果市町受理日	平成28年9月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年4月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が健やかに暮らしていけるために、また、心身に緊急な対応が必要になった場合には、医療生協を母体とした医療連携を強みに連携強化を図っている。また、組合員さんの活動によりボランティア活動など地域との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は日常業務の中や月1回の会議の中で、職員が意見や提案を言いやすい環境をつくっておられ、職員はレクリエーション係や掲示物係などの企画の他、普段から意見を出し合ってサービスの質の向上に努めておられます。日常の関わりのなかでの利用者の言葉や様子を介護記録に記録されて思いや意向の把握に努めておられ、把握した「思い」を職員の提案で大判用紙に描いた「希望の木」に「希望の種」として貼付され、家族と職員がその希望を共有されて、利用者の思いに花を咲かせることができるケアとなるように取り組んでおられます。事業所では「個人の学習、研修参加記入表」を活用して、職員ひとり一人が個別の学習や研修の目標を立てられ、どんな研修に参加したかやどんな本を読んだかなどを明らかにされて、職員の主体性を尊重したスキルアップの支援を工夫しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝の申し送り時に職員同志で理念の復唱をし自分達の理念を確認しあっている。入居者の希望を「きぼうの木」と名づけた掲示物を作成し明確にしている。入居者・ご家族と共に共有できるように掲示し実践につなげている。</p>	<p>「いまこの場所で心地よく、いまこの瞬間輝いて、いまこの輪の中で自分らしく、笑顔でもに生きることをめざします”生きる”を支える優しさが安心して暮らせるまちをつくれます」という事業所独自の理念を開設時につくっている。理念を事業所内に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和して職員間で共有している。利用者がその人らしい生活をおくれるよう思いの把握に努め、笑顔を得た時の様子などを職員間で話し合い、理念の実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>開設初年度に付き、日常的な交流は少ないが、自治会に加入し、地域の清掃作業に参加、同一法人による掲示板の提供により自治会に貢献。交流スペースでの行事の案内を各自治会におこなうなど交流の機会に努めている。</p>	<p>自治会に加入し、職員は地域の清掃作業(通路の草取り)に参加し、法人が自治会に掲示板を提供している。市主催の認知症サポーター養成研修会場として年1回、事業所の地域交流スペース(すまいる)を提供し、職員も研修に参加している。法人の組合員が歌や手芸、外出見守り、傾聴などのボランティアとして来訪したり、毎月1回のボランティアカフェ《お茶会》を開催して交流しているが、地域の人との日常的な交流は少ない。</p>	<p>・地域との交流の拡大</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域・生協組合員・入居者家族などにむけた「認知症サポーター養成講座」を開催するなど認知症を地域で支える取り組みの実践を行っている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価内容を全員が目を通し、改善の必要な点については、新たな取り組みを行う等、具体的な取り組みを実践している。	管理者は職員会議の中で評価の意義をガイド集に添って説明し、自己評価をするための書類を職員全員に回覧している。アウトカム評価は職員全員が記入し、各項目は職員の意見を集めて管理者(施設長)と計画作成担当者(副施設長)がまとめている。自己評価を通して、利用者が生き生きとした生活ができるよう職員は利用者と一緒に過ごす時間を多くし、散歩や外出機会を増やすことを話し合い、全員での外出や個別での外出、散歩の機会を増やすように取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ヒヤリハット報告を行い当施設で起きている内容を報告し、意見をいただいている。出された意見については、改善するように職員で共有している。	会議は、家族会代表や利用者、民生委員、市担当課職員、法人理事、クリニック看護師長、管理者(施設長)、計画作成担当者(副施設長)のメンバーで、年6回開催している。利用者の状況や活動報告、行事予定、事故・ヒヤリハット等の報告をして、話し合いをしている。市からの情報提供や報告内容を元に、安全や事故防止について話し合い、改善に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域メンバーの拡大 ・議事録の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者には、運営推進会議にも参加していただいている。サービス提供にあたり相談や報告をしながら連携をもって実施している。	市担当者とは運営推進会議の他、電話や直接出向くなどして、情報交換をしたり、申請内容や事例相談を行い、助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、玄関の施錠を含め改めて職員と身体拘束をしないケアについて話し合いを行い、対応について取り組んでいる。	身体拘束については開設時の研修や職員会議の中で管理者が指導し、職員間で話し合っ理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をしないで外出したい利用者があれば一緒に出かけるなど工夫している。スピーチロックについては気になるところは管理者が指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、開設時研修において行政を講師に招いて職員研修を行った。また、管理者は県が開催する研修会にも参加し、理解を深めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている方がおられ理解をしている。また、後見人の方と蜜に連絡をとりながら制度に添った対応を相談しながら行っている。研修会などについては、今後参加に努め職員全員の理解を深める。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、重要事項説明書や契約書を丁寧に説明するように努めている。できるだけわかりやすい言葉で行うように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口を設置し、苦情対応できるようにしている。	相談や苦情の窓口を明示し、処理手続きを定め、契約時に本人と家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時、電話などで家族から意見や要望を聞いている。月1回、事業所だよりを配布して利用者の生活状況を知らせており、家族の面会時には職員の方から言葉をかけるなど、日頃から意見や要望が言いやすいように工夫している。苦情があれば苦情報告書に記録して職員間で共有している。家族から利用者の病状の変化と服薬内容について知りたいという要望があり、事業所だよりに記録したり、面会時に薬のリストを渡して口頭で説明するように改善している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会を毎月開催し、職員との意見交換を行い、業務の改善に反映させている。また、代表者とも毎月会議を設けて、業務の改善や職場の環境改善に努めている。	月1回の職員会議時や申し送り時に、職員の意見や提案を直接聞いている他、日頃から管理者の方から言葉をかけて職員が意見を言いやすい環境をつくっている。意見や提案は月1回のスタッフ会議(在宅介護福祉事業部責任者、施設長、副施設長が出席)で検討している。レクリエーションや掲示物、環境、物品などの各係よりの企画に取り組んでいる他、利用者の希望を「希望の木」に掲示して共有してケアにつなげているなど、意見や提案を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、給与に見合った手当て、福利厚生の実施に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修要綱に添った研修の機会を設けている。外部研修にも参加できるように勤務の調整など含め、業務保障もしながら職員の研修のスキルアップに努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講機会を提供している。受講後は出張報告に記録し、職員会議で伝達をして、資料はいつでも閲覧できるようにして共有している。法人研修は、年4回(安全、高齢者虐待、介護計画作成、感染予防)実施している。内部研修は、年に2回(看取りについて、嚥下について)実施している。新人研修は、法人で1日研修の後、日々の業務の中で管理者や先輩職員から介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。職員ひとり一人の研修受講記録、自己学習(読書等)の記録を整理し、ひとり一人の学びを把握できるように工夫している。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への訪問や相談・情報交換などをして、連携を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず事前面談を施設長・副施設長のいずれかで実施。入居者本人との面談、他サービス利用時の利用状況などの把握を行い、入居者との関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学や面談により、ご家族の不安や心配事に対して真摯に向き合い不安の解消に努め、信頼関係に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の必要としている支援を見極め、適切な情報を提供し、必要性があれば行政や医療関係者との連携を図るように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送るなかで本人の役割を見出し、入居者、家族、職員と共に支えあう関係を築くように心がけている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人の希望や思いを代弁し、ご家族の置かれている状況に共感しながら、共に入居者本人を支えあう関係づくりができるように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご近所、ご親戚などの面会、またご本人の生活歴などを把握しながらその方にとって懐かしい場所の話題など会話に入れるなど努めている。	家族の面会や親戚の人、知人、友人、近所の人等の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。自宅の近くや馴染みの地藏参りに出かけている。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や商店での買物、外泊、墓参、法事や教会礼拝への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同志のトラブルを防ぐため、席の配置や会話に職員が間に入りトラブルを防いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談できるような関係作りに努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに傾聴するように心がけ、本人の思いに添えるように努めている。また、コミュニケーションの困難な方には、表情や行動で理解するように職員同志で情報交換を行っている。	入居時のアセスメントシートを活用している他、入居後に再度アセスメントを行い、介護計画作成時に家族の意向を聞いている。日常の関わりの中での本人の言葉や様子を介護記録に記録して思いの把握に努めている。把握した思いや希望を「希望の木」と名付けた掲示物に「希望の種」として貼り、花が咲くケアになるように実現に向けて取り組んでいる。困難な場合は家族や職員で話し合い、本人本位に検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握するため、これまでのサービスやご家族、知人などから情報を集め共有している。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事量、水分摂取量、排泄、排便、バイタルサインなど記録し、職員間で情報交換をおこないながら、連携をとっている。			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや申し送りにおいて、本人にとって必要な情報を交換し、より良いケアに繋がるように介護計画を作成、反映させている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となって月1回カンファレンスを実施し、本人や家族の思いや意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6か月に1回、見直しをしている他、利用者の状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日常生活の記録や、健康状態・身体状況を記録、職員間で共有しながら計画に見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変による受診介助など医療従事者に対する相談支援。入退院時の情報提供や退院時カンファレンスへの参加など必要なサービスに努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩、花作りなどできるように支援している。地域との交流の機会が少ないため今後交流する機会を作るため場所の提供などに努めていきたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携している診療所を主治医としている入居者が大半のなか、家族の協力も受けながら他医療機関の主治医をかかりつけ医とする。身体状況に応じて、報告や相談などその時必要な情報を提供している。	本人や家族の納得を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。必要に応じて、協力医療機関から月2回の往診がある他、状態に応じて受診の送迎がある。専門医には家族の協力を得て受診を支援している。受診結果は家族に電話や面会時に報告し職員は経過記録や申し送り簿で情報を共有している。緊急時には、きょうりょくいりょうきかんや24時間対応の訪問看護師と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を持つ職員と訪問看護ステーション、各医療機関の看護師との医療連携をもちながら、急変時の対応について相談や指示をうけ情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と情報交換を行い、病状確認を行っている。また入院先を訪問するなど連携を持ちながら、早期に退院ができるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にむけた指針をもち取り組んでいるが、実際の取り組みについては、実例がなく今後、入居者本人の一番望ましい援助が行えるように取り組んでいく予定である。	契約時に重度化に向けた指針に添って医療機関や他施設への移設も含めて事業所でする対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階からかかりつけ医や看護師に相談し、カンファレンスで検討して家族と方針を共有して支援に取り組むこととしている。職員は看取りのケアができるように内部研修の中で取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	開設時研修においてBLS講習を全員で受けてAEDの使用についても習得。誤嚥についても嚥下についての講習会を講師を招いて予防する取り組みに努めるなど計画している。	事例が生じた場合はインシデント、アクシデント報告書に発生の場所や状況、対応、防止策を記録し、管理者が防止策を確認して職員間で共有し、月1回の職員会議で再度検討して、ひとり一人の事故防止に取り組んでいる。救急救命法については開設時に全職員が研修を受講し、内部研修では誤嚥の対応について学習しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を開設後一回開催。開設前にも一度実施して取り組んでいるが、地震などによる避難訓練は、実施していない。	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火器の取り扱いについて利用者と一緒に行っている。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に対して優しく丁寧な声かけに努めているが時々、命令的な場合も見られる。個人情報の保護については留意している。	管理者は日頃から「利用者のこれまでの人生の歴史を大切にして尊敬の念を持って言葉づかいや対応をするよう」に話しており、職員は人格の尊重やプライバシーの確保について理解して、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。気になる場合は、管理者が指導している。個人記録の保管に留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を話しやすいように雰囲気を作り声かけを行っているが、場合により職員の思いが優先されている時も見られる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて一人ひとりの暮らしに添えるよう努めてはいるが業務優先になってしまうことも見られる。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう努めている。出張美容や行きつけの美容室も大切にしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者であるが、盛り付け、後片付けを職員と一緒にしている。できない方は台ふきなどできることをお願いしている。	献立の作成と食材の準備は業者に依頼し、利用者の好みやアレルギーに配慮して食品交換をしたり、状態に合わせて形態を工夫して、三食とも事業所で専任の調理職員が調理して提供している。月に1回、麺類の日や刺身の日を設けている。利用者は野菜の下ごしらえ(茹の筋取)や盛り付け、台拭き、お茶汲み、ランチオンマットの配布、食事のあいさつ、下膳などできることを職員と一緒にしている。朝食と夕食は利用者と職員(1名)が同じテーブルで同じものを食べている。おやつづくり(ホットケーキ、ドーナツ、ミニどら焼き、かき氷)や季節行事食(おせち、節分の巻寿司、節句の桜餅)、誕生日の手づくりケーキ、ボランティアによるお茶会、家族との外食など食事を楽しむことのできるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録している。嚥下力低下が見られる方には刻みやトロミ剤を使用して対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア体操は毎食前に行い、毎食後口腔ケアを行い、利用者の状態に応じた声かけ、見守りを行っている。毎週訪問歯科診療もあり、適宜対応している。義歯洗浄は毎週1回施行。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状態を確認、排泄パターンを把握し、トイレでできるよう声かけを行っている。紙パンツやパッドなども必要に応じて職員間で確認し対応している。	週間チェック表を活用して排泄パターンを把握し、利用者ひとり一人に合った言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、水分量にも留意している。必要に応じて主治医に相談。また体を動かすこと、食事の工夫により自然な排便を促すよう努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は午後の時間帯に入浴を行っている。入浴拒否がある場合は無理じいはず対応している。個々の希望に応じることは難しい。	入浴は、週5回、14時から16時までの間可能で、週に3回は入浴できるように支援している。入浴の順番や湯加減に配慮し、ゆったりとくつろいで入浴できるように支援している。季節感が味わえるよう柚子湯にすることもある。入浴したくない人には無理強いしないで時間を変えたり、言葉かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴、手浴、部分浴など、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態により休息が取れるようにしている。睡眠パターンをチェックし把握、室温調整等を行い、休息できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬の間違いを防ぐ為、3度チェックを行い、服薬時は本人に渡し確実に飲み込むまで確認。記録に残し服薬の確認を行う。薬の処方や容量が変更されたときは特に本人の状態変化に気をつけ医療機関と連携を取っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる力を把握、職員間で共有し活躍できる場面が持てるよう支援をしている。また、仕事を頼んだり、感謝の気持ちを職員がしっかりと伝えている。	掃除(モップ掛け、手すりを拭く、ゴミ捨て)やシーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水やり、花瓶の水を代える、新聞紙でゴミ箱づくり、雑巾を縫う、買物、散歩、新聞を読む、料理本を見る、テレビやDVDの視聴、かるた、トランプ、オセロ、ラジオ体操、リハビリ体操、習字、色紙で季節の壁面飾りづくり、節分、お雛祭り、七夕、クリスマス会、誕生日会、ボランティアとの歌、合唱、お茶会など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出は時々行ってきたが、去年は感染症があり、思うように外出はできていない。	散歩やゴミ捨て、商店街や大型ショッピングセンターでの買物、季節の花見(桜、菖蒲)、ドライブ(北向き地藏、常磐公園、中津瀬神社、自宅付近)、初詣、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用や買物、一時帰宅、墓参、法事への参加、外食など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で財布を所持している方は数名いる。買い物に行くときは利用者が支払えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかける場合は施設の電話を使用したり取り次いだりしている。手紙の取次ぎもしている。携帯電話を所持している方も居られ定期的に充電をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所には季節の花や飾り物を置き、一緒に製作し楽しんでいる。	玄関やリビングには季節の生花を飾り、壁面には利用者と職員が一緒につくった季節の折り紙作品を飾って、季節感を採り入れている。食堂兼リビングには食卓や椅子、テレビ、ソファを配置し、廊下にもソファを置いて、利用者が思い思いのところでくつろげるように配慮している。建物内は清潔で、温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場所にはテーブルやソファがあり、自由に使い利用者同士の交流の場所となっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたなじみのものもある。写真なども飾っている。仏壇もある。	テレビ、仏壇、小物入れ、飾り棚、テレビ、椅子、衣裳ケース、時計、温湿度計など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真やカレンダー、色紙、利用者の習字作品、生花を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場はわかりやすく表示している。場所の理解が難しい方には目印をつけたりしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 協立グループホームかいなん

作成日: 平成 28 年 9 月 26 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流の拡大	地域住民に自分たちのグループホームの存在を知ってもらい、交流の機会を設ける	地域にむけた機関紙の発行を行い、グループホームを知ってもらい、隣接の交流スペースすまいるを活用して交流の機会をつくる	18ヶ月
2	5	運営推進会議における地域メンバーの拡大及び議事録の工夫	運営推進会議のメンバーに地域と密接な関係のあるメンバーをふやす。また、見て読んで理解しやすい議事録の作成を目指す。	地域メンバーの中に自治会長や包括支援センターからの参加協力を依頼する。毎回、議題を設定し、意見交換しやすい内容にして会議をすすめる。	18ヶ月
3	14	職場内研修の充実	一か月に一回は、職員研修を実施する。	毎月の職場内会議(部会)に30分程度の研修をもうける。年間計画案をたて、計画に沿って研修を行う。	18ヶ月
4	35	全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練が行われていない	全ての職員が、応急手当や初期対応について理解、習得する。	看護職員や同一法人から講師を要請し、講習会を設け全ての職員が理解・習得・実践できるように定期的に学習の機会を設ける。	18ヶ月
5	36	災害時における地域との協力体制の構築	近隣住民に緊急時の協力体制が構築できるように日常的に関係を築く	自治会の清掃活動に管理者及び職員が参加し、近隣住民との顔のみえる関係作りを行い、緊急時の協力メンバーとなってもらえるように依頼する。	18ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。